平成３０年度道徳教育研究協議会指導講評より【指導のポイント（抜粋）】

研究協議題：第１日

「『特別の教科　道徳』の目標である「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるために、道徳の時間の指導方法についてどのような工夫改善を図ることができるか。」

【授業全般について】

・教師と子供が双方向で学習する「相互主体関係」を心がけます。
・道徳科のねらいから、Ａ（指導内容）について、Ｂ（学習活動）を通してＣ（資質・能力）を育てます
・発問の立ち位置に注意してください。教材や人物に対する発問の立ち位置を意識してつなげてください。
・場の設定、コの字、椅子だけ、円形など座席配置の工夫をしてください。
・吹き出しや短冊、役割演技や動作化、ねらいによって場面を考えます。
・授業者の明確な指導観のある道徳科の授業をお願いします。本当に身に付けさせたい力は何か考えます。特に、「いじめ」の構造から、個々人とともに教室という社会の問題であることから、「いじめ」問題に対応する道徳授業が求められています。
・答えが一つではない問題、答えのない問題を解決する資質・能力を育成するために、主体的・対話的で深く学ぶ、考え・議論する道徳は、最善解を求めるものです。（正解を求めるものではありません。）
・日頃の学級経営がしっかりしていることが重要です。道徳の授業を見れば、学級経営がよくわかります。
・道徳コーナー、教材や道徳的価値のまとめを提示するなど、学校全体で取り組んでほしいです。
・道徳だよりを出すことも有効です。保護者だけでなく、地域や中学校区に配るとよいでしょう。また、小中連携を踏まえて、学習のつながりを意識されるとよいでしょう。

【導入】

・児童に考えさせたいことを明確にしてください。道徳科の目標「理解を基に」では、内容項目を理解する「価値理解」、「どうして人はそれどおりに行動できないのか」、「大切だと分かっていてもなかなか実現できない弱さ」など「人間理解」、最後に「自己理解」をさせてください。
・アンケートも効果的です。子供に主体性を持たせることができます。アンケートの切り口はどうか、価値は明確になっていたかも確認する必要があります。

・子供たちの変容を見取るために、最初のアンケートを最後まで掲示しておくとよいでしょう。
・教材を渡さない、ゆっくり、内容が入るように読む、登場人物等になりきるなど、範読を工夫すると効果的です。長い教材があれば、前もって読んでおくことも考えられます。

【展開】

・子供が終始、学習課題に沿って考えられるようにします。
・自分の意見を明確にするために、色紙やハートメーター、帽子など小道具の活用も考えられます。このことにより、変容が明確になります。
・子供にとって、価値について考えが高まっている子と、高まっていない子がいますが、後者に視点をもって授業を進めて、最後にアンケートで振り返ります。
・議論する道徳について、子供同士で話し合えるようにしていくよう、教師はまず整理していくことが大切です。「〇〇さんの意見はこうだったけど。●●さんはどう？」というような意図的な発問をするなど、教師はファシリテーターに徹することも考えられます。
・自分で考える時間を確保するとともに、それを表出するために、交流させる時間も必要です。どの場面で、グループで話し合わせるか、話し合いやすいグループになっているかなど、教師の意図が必要であり、力量が問われます。
・主人公はなぜその行動をするのか、多面的・多角的に捉えることに結び付いていきます。
・学習課題について、話し合う時間をとることは重要で、実践につながる大切な部分となります。教材はあくまでも考える手がかりです。
・葛藤について　登場人物の意見を明確に分けるなどの工夫が必要です。例えば、チョークの使い方、板書でも明確に分けるとよいでしょう。
・葛藤について、「そうなの？」「それでいいの？」「もう少し詳しく考えてみて・・・」などの切り返しが重要となります。

【ノート等の使い方】

・何を書くか明確にします。吹き出しや返信用のはがき等を活用することも考えられます。ノートなら様々な工夫ができます。これが評価につながります。

【振り返り】

・「何を振り返らせるか？」教師の言葉が足りないと反応が変わります。振り返りの発問で子供は迷います。ねらいについて振り返らせることが重要です。教師の問いかけによって、子供の書く内容が変わります。

【終末】

・余韻を残します。少し脚色しても、役者になって。歌うこともよいでしょう。
・授業の積み重ねが分かる工夫も必要です。

【評価について】

・教師の授業記録や道徳ノート等、評価の根拠になるものが必要です。
・評価の観点ではなく、評価の視点が重要です。

研究協議題：第２日

「自校の道徳教育の一層の充実を図るためには、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うことが大切である。そのために、全教職員の協力体制の確立、家庭・地域社会との連携等が重要である。道徳教育推進教師として、どのような役割を担い、工夫改善をすればよいか。」

【「特別の教科『道徳』」を要とし、学校の教育活動全体で行うことで重要なこと】

・自校の取組の成果や課題を明確にすることが大切です。
・ある新聞記事の見出し「３人連れ、児童館は駄目？」について多面的に考える問題について、「規則が大切か、それとも…」、「利用者としては…、運営者としては…、社会的には…」など多面的な視点で考えることが大切です。
・経団連のアンケートより、「グローバル事業で活躍する人材に求められる素質、知識・能力」のグラフを見ると、企業から最も求められているのは、「英語によるコミュニケーション能力」ではなく、「興味・関心をもち、柔軟に対応する姿勢」だそうです。このようなことを踏まえて、学校教育で求められる能力を育成する教育活動を行っていく必要があります。
・低学年の特徴を踏まえて、書くことについての工夫、板書の工夫など、どのような工夫を用いるか絞って考えます。
・仮説と手立てを明確にすることが重要です。（＝ねらいがはっきりしてくる。）
・次期学習指導要領では、迫るべき道徳的価値を明確にすることが求められています。価値理解が深まるような学習課題を設定します。
・時間配分について、例えば、３５分で授業全体を完結させ、８分で振り返り、２分で説話することで４５分の中に授業が収まります。
・学年ブロックでの分業については、資料を分担して作り、次年度以降、共有財産として残していくことが大切です。
・自分の意見を表明する、他者の意見から新たな発見をする、ロールプレイなどの動きから読み取る、価値へ迫るために振り返りを投げかけるなど授業の基本形（「気付き→考える→見つめる」）を作っておくとよいでしょう。
・資料・板書の横書き、縦書きについては、目的に応じて計画するとよいでしょう。
・教材について、ホワイトボードの活用は、児童の思考の様子が可視化されます。心情の細かい部分まで共有できます。
・小中連携については、陸上競技大会前の取組が充実している。陸上部からのアドバイスをもらう際、小中教員同士が道徳的視点の共有を図るだけでも児童への働きかけが違ってきます。近くの学校と連携して資料を収集し、共有していく方法もあります。
・道徳教育推進教師が中心になって、評価についての共通理解を図ってほしいです。

・授業時数は限られているので、博学連携についても、1時間の中で収まる内容を吟味していってほしいです。
・これからの道徳では、多様で質の高い指導法を身に付けることが重要です。考え、議論する道徳を行うためには、生徒に問いを立てさせる、生徒から問いを引き出すことが大切です。

（例）アリとキリギリス
「アリはえさをあげた方がいいですか？」
あげた方がよい＝ピンクの紙を上げる、あげない方がよい＝ブルーを上げる
可視化した後、理由を考えさせる。
選択肢は２つでも理由は多様である。理由の中に道徳性の発達が見える。

この他の教材として「裏庭での出来事」「二通の手紙」でも物語の先を考えさせるなど、いろいろな工夫ができます。挑戦してほしいです。
・道徳教育の充実が求められる理由として、いじめの本質的な問題に向き合うこと、決まった正解のない予測困難な時代を生きることが想定されていることが挙げられます。
・道徳が好きであるという中学生の理由として、「人の意見が聞くことができるから」という意見があります。多面的、多角的な見方へ発展させることが必要です。
・生徒にとって価値のある道徳授業を実施してほしいです。

【道徳教育推進教師の役割】

・道徳教育推進教師の意義や役割については、再度確認してほしいです。（「学習指導要領解説　第３節　１　道徳教育推進教師を中心とした指導体制」を参照）
・道徳教育推進計画について、計画が時系列にするとよいでしょう。
・学校行事の道徳的ねらいを提示することはすばらしいです。
・道徳教育推進教師として、味方を増やしてほしいです。「１人の１歩より、１０人の１歩」
・校長先生の方針を大切にしてほしいです。校長先生に具申することも必要です。年度当初に何を示すのか、管理職と相談して進めていきます。その際、重点化することも必要になってきます。
・今のやる気をつなげるために、明日からまずスタートしてほしいです。
・他校の実践、取組からできることを少しずつ取り入れてほしいです。
・指導計画（全体計画・年間指導計画・指導案等）の作成については、道徳教育推進教師として、平成３１年度に向けてビジョンや方策を今から発信しておき、それをもとに先生方に作成していただくとよいでしょう。
・年間指導計画を見直す際に、「匠の技」や県の資料を活用していることはよいです。
・指導案については、重点化すべき点を絞るとよいでしょう。
・「〇〇小のきまり」といった学習のきまりを整えることで、他教科との関連がもちやすくなります。
・すでに実施している教育活動に道徳的な価値付けをすると、先生方の理解が深まり、教育活動を通した道徳教育を意識しやすくなります。
・人材バンクの活用をしてほしいです。
・他学年、ブロック、管理職との連携を図ってほしいです。（板書役として活用する等）

・授業公開や家庭・地域社会との連携については、各校で工夫すると効果的です。授業以外で保護者に道徳教育に関する行事（例：心の集会）を公開していることはすばらしいです。
・コミュニティスクールや学校応援団の取組と道徳教育の関連を図ってほしいです。
・教科等横断的な指導や家庭地域との連携は、これから重要になってくる。保護者にも授業に参加していただくとよいでしょう。（保護者、大人の見方の理解）
・ブロックや他学年と連携するなど組織を意識した活動を取り入れてほしいです。
・道徳だよりや心の教育だより（道徳・生徒指導・特活・人権等の合同通信）の発行をしてみるのもよいでしょう。学級通信で道徳の内容について記載したり、親子で取り組む家庭学習を提案したりしてほしい。学校便り、道徳便りは地域で回覧されている学校もあります。
・今回の協議会など、研修等をきっかけに築けたネットワークを生かしてほしいです。
・授業を見合うところからスタートすることもよいでしょう。
・評価について、教員同士で共通理解を図っていることはよいです。道徳教育の評価について、埼玉県中学校教育課程評価資料を参考に実施してほしいです。
ただ、評価文例だけが独り歩きしてしまわないように十分配慮してほしい。
・評価について、保護者への説明は、必ず必要です。その際、

①調査書に記入しない
②数値による評価はしない
③個人内評価である
ことの３点を伝えることが大切です。
・評価の際、文例集を活用することも可能であるが、授業に係る指導と評価の一体化されていないと活用できません。
・道徳的価値の分析表や振り返りシートを作成し活用していることはよいです。
・年度当初の研修会や各学期１回の研修会を定着させていることはよいです。
・板書を撮影し、共有できる場所に保存することも指導法の共有という点で有効です。
・ワークシートは共有します。教材を電子化すると共有しやすくなります。
・評価のためにも、蓄積するための道徳ノートの活用を進めてほしいです。
・全クラスでいじめに関する教材を扱う取組もできます。
・時間割を工夫して組むことでローテーション授業の実施も可能と思われます。
・道徳コーナーの充実をしてほしいです。
・問題解決型の話し合いやグループでの話し合いなど、話合い活動の充実を図ってほしいです。
・小中連携を進めるために何が必要か把握します。どのように小学校で学習したことが中学校に引き継がれていくのかを把握することがポイントです。
・小学校・中学校それぞれの文化の違いについて理解します。
・タブレットなどで記録を残し、発信することでお互いの理解を進めます。
・小中連携のヒント（教師の基本姿勢の理解）

幼児　道徳的基盤を身に付ける
（教えるバランスが多い）
自己の生き方を見つめ、考える
（想像力を高める）　中学生